

- ACS日本支部 Governorに就任して 1
- ACS Governor退任のご挨拶…………… 2
- Reflections on the Japan Surgical Society Meeting in Nagoya: A Presidential Highlight …… 3
- ACS日本支部 Councilorに就任して …… 4
- ACS日本支部事務局長時代の思い出… 5
- ACS Clinical Congress 2025に出席して …… 6
- ACS Clinical Congress 2025で日本支部・日本外科学会共催 JAPAN NIGHT 2025 in Chicagoを開催 …… 7



# ACS日本支部ニュース

NEWSLETTER FROM THE JAPAN CHAPTER OF AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS



慶應義塾 副学長・常任理事

北川 雄光

Yuko Kitagawa, MD, PhD, FACS

## ACS日本支部 Governorに就任して

このたび、2025年10月に國土典宏先生からACS (American College of Surgeons) Governor (支部長) を継承することとなりました。私は昨年10月に、同じく國土先生から President (会長) を引き継ぎ、本支部の運営に関わる諸任務を拝命し、責務の遂行に努めてまいりました。今後はこれに加えて、GovernorとしてACS本部との公式な連携窓口を務め、国内外の会員との橋渡しといった役割も兼ねることになります。両役職をお預かりする責務の重さを痛感するとともに、身の引き締まる思いであります。

ACSは1913年の創設以来、外科医療の質向上と国際的な外科医育成を使命として活動してきました。現在では世界最大規模の外科系学術団体として発展し、臨床・教育・研究のあらゆる領域で国際的な役割を果たしています。日本支部 (Japan Chapter) は、1974年のDr. C. Rollins Hanlonの来日を契機とした交流を基盤に、初代理事長である藤井功一先生の多大なご尽力により、1987年にACS 107番目のChapterとして設立されました。藤井先生は私と同門の慶應義塾大学医学部の31期先輩です。先生の過去のご寄稿文には、当時の日本のFellowが30～40名ほどであったとの記述があり、今日の日本支部発展を考えると隔世の感があります。

日本支部の歴代Governorは、初代の藤井功一先生以来、錚々たる顔ぶれがその重責を担ってこられました。第2代の櫻井健司先生、第3代の出月康夫先生、第4代の山川達郎先生、第5代の谷川允彦先生と、各代において支部の基盤整備や国際交流の促進が着実に進められ、日本支部の発展に大きく寄与されました。第6代の矢永勝彦先生は、国際委員会で要職を務められ、日本人FACSも著明に増加し、日本支部の国際的存在感が大きく高まった時期でもありました。続く第7代の國土典宏先生は、複数のCommitteeや

Workgroupにおける活動を通じて国際連携の強化に尽力され、日本支部の国際的プレゼンス向上にとりわけ大きく貢献されました。こうした歴代Governorの先生方の歩みが、今日の日本支部の確かな発展を支えています。

現在、日本支部には約500名のFACSが所属し、活動の幅は年々広がりを見せています。Governor兼Presidentとして、この大きな組織をお預かりする責任の重さを強く感じております。国際的な外科医育成への貢献、国内外の外科医との交流促進、そして日本発の外科医療の価値を世界に発信していくことが、これからの私に課された使命であると考えています。

ACS日本支部は、長谷川潔前Secretary、國土典宏前Governor兼Presidentをはじめとする諸先生方のご尽力により、国際的にも高い評価を得る支部へと発展してきました。新体制では、Treasurerの長谷川潔先生、Councilorの江口晋先生、高折恭一先生、川瀬和美先生、吉田寛先生、吉住朋晴先生、そしてSecretaryの篠田昌宏先生とともに、支部活動のさらなる充実と国際的な存在感の向上に努めてまいります。会員の皆様におかれましては、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 略歴

1986年3月	慶應義塾大学医学部	卒業
1993年8月	カナダブリティッシュコロンビア大学	留学 (1996年7月まで)
2005年11月	慶應義塾大学	専任講師 (医学部外科学)
2007年4月	慶應義塾大学	教授 (医学部外科学)
2009年4月	慶應義塾大学病院	腫瘍センター長
2011年10月	慶應義塾大学病院	副病院長
2017年8月	慶應義塾大学病院	病院長、慶應義塾 理事
2021年5月	慶應義塾	常任理事
2025年5月	慶應義塾	副学長

### ACS日本支部 歴代Governor一覧 (敬称略)

初代	藤井 功一	Koichi Fujii	MD, FACS
第2代	櫻井 健司	Kenji Sakurai	MD, FACS
第3代 (1995 - 2001)	出月 康夫	Yasuo Idezuki	MD, FACS (Hon.)
第4代 (2001 - 2007)	山川 達郎	Tatsuo Yamakawa	MD, FACS
第5代 (2007 - 2013)	谷川 允彦	Nobuhiko Tanigawa	MD, FACS
第6代 (2013 - 2019)	矢永 勝彦	Katsuhiko Yanaga	MD, PhD, FACS
第7代 (2019 - 2025)	國土 典宏	Norihiro Kokudo	MD, FACS
第8代 (2025 -)	北川 雄光	Yuko Kitagawa	MD, PhD, FACS



国立健康危機管理研究機構 理事長

## 國土 典宏

Norihiro Kokudo, MD, PhD, FACS, FRCS

ACS Governor 退任にあたり、ご挨拶申し上げます。2019年から2025年秋まで Governor を務めさせていただきました。日本支部会長は2018年4月から2024年まで務めさせていただきました、昨年退任のご挨拶を申しあげました。

昨年のご挨拶にも書きましたが、前日本支部長・Governorの矢永勝彦先生、前Secretaryの吉田和彦先生を始め歴代Governor、支部長、Councilorの先生方には大変お世話になりました。特に、矢永先生には引き継ぎにあたり日本支部のプレゼンスをいかに発揮するか、ACSでの日本としての活動方針など懇切丁寧にご指導いただきました。改めまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

私自身のGovernorとしての活動はInternational Relations Committee, Governors Chapter Activities International Workgroupのメンバーとして始まり、後半は同WorkgroupのchairとしてNational Chapterの拡大と活性化、低所得国へのoutreach、International Fellowshipの推進等を行いました。ACS事務局のサポート体制もしっかりしており、特にInternational Chapters, Member ServicesのマネージャーであるBrian Frankel氏には大変お世話になりました。また、日

本支部からは東京慈恵会医科大学葛飾医療センター外科の川瀬和美先生がWomen in Surgery Committee (WiSC)委員として活躍されました。

この活動を通じて何人か友人もできましたが、特にIdaho州GovernorのJulio Vasquez先生には親しくしていただきました。彼はペルー生まれの日系人で沖縄にルーツがあります。UC San Diegoで著名な膵臓外科医Abdool R Moossa教授(故人)の元で修練を積んだようで、Moossa教授を私も存じ上げておりましたので話が弾みました。日本語は全くできませんが、日本に興味があり、私の話を熱心に聞いてくれます。Clinical Congressの際には毎回2人で夕食を共にしてゆっくり話をしました。日本支部レセプションにも毎回参加してくれましたのでご記憶のある会員もいらっしやると思います。これからもこの友情を大切にしたいと思います。

Governorの役割としてConvocationへの出席があります。控え室にGovernor達が集まり、ロービングして会場中央を歩いてステージに向かいます。荘厳な「威風堂々」の曲が流れる中、すでに入場し立って出迎えてくれる多くのInitiates(新fellow)の中の通路を歩くのは、毎回晴れがましく感動を覚えました。式典の途中でFellowship Pledge(フェロー

## ACS Governor 退任のご挨拶

シップの誓い)をInitiates全員で声に出して宣誓する場面があります。全文はHPで公開されています(<https://web4.facs.org/images/ebusiness/Posters/FellowshipPledgeCodeConductPoster-11x17.pdf>)が患者第一主義、専門的倫理、生涯学習、プロフェッショナルリズムなど外科医として大切にすべきことを簡潔に述べています。ベテラン外科医でも年に一回この宣誓を聞くことは意味があると毎回感じています。わが国にはこのような機会はなく、例えば毎年の外科専門医合格者が一堂に

集まりお祝いをし、外科医としての責任と決意を新たにできる機会があっても良いのではないかと考えています。

昨年日本支部会長退任のご挨拶でACSや日本支部の状況についてご紹介しましたので、今回は個人的な感慨を述べさせていただきました。ACS日本支部は北川雄光支部長、篠田昌宏 secretary 両先生の強力な新体制を得て順調にスタートしました。Governorも北川雄光先生にバトンタッチし、益々活躍されることを祈念いたします。これまでのご支援誠にありがとうございました。



2025年10月4日 シカゴConvocation前のGovernor控え室にて(筆者向かって右隣がIdaho州GovernorのJulio Vasquez先生)



2025年10月5日 シカゴ日本支部レセプションにて(右より現ACS会長Anton Sidawy先生、ACS会長E. Christopher Ellison先生、筆者)

## 略歴

- 1981年 東京大学医学部医学科卒業、同第二外科研修医
- 1987年 東京大学第二外科助手
- 1989-91年 米国ミシガン大学外科留学
- 1995年- 癌研究会附属病院 外科医員(2001年 同医長)
- 2001年- 東京大学肝胆膵外科 助教授
- 2007年- 東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科 教授
- 2017年- 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 理事長
- 2025年- 国立健康危機管理研究機構理事長(現在に至る)
- 2012-16年 日本外科学会理事長
- 2018年 第118回日本外科学会会頭
- 2015-17年 A-PPHBA (Asian-Pacific Hepato-Pancreato Biliary Association) President
- 2020-22年 IHPBA (International Hepato-Pancreato Biliary Association) President
- 2022-24年 APPLE (Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Association) President
- 2026年- 日本臨床外科学会会長



アビテン®に含まれるコラーゲンが血小板を活性化させ、止血カスケードを促進させます。

コラーゲン使用吸収性局所止血材  
**BD アビテン™**

承認番号:30300BZX00066000  
クラス分類:高度管理医療機器(クラスIV)  
一般的名称:コラーゲン使用吸収性局所止血材  
償還区分:微線維性コラーゲン

製品に関するお問い合わせは  
こちらから

・事前に必ず添付文書を読み、本製品の使用目的、禁忌・禁止、使用上の注意等を守り、使用方法に従って正しくご使用ください。  
・本製品の添付文書は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の医薬品医療機器情報提供ホームページでも閲覧できます。

製造販売元  
株式会社メディコン  
〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地1-13-22  
カスタマーサービス Medicon-web@bd.com

crbard.jp

BD, the BD Logo, Avitene are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. ©2023 BD. All rights reserved.




植物デンプン由来の吸収性局所止血材が外科手術をサポートします。

デンプン由来吸収性局所止血材  
**バード アリスタ® AH**

承認番号:22600BZX00455000  
クラス分類:高度管理医療機器(クラスIV)  
一般的名称:吸収性局所止血材  
償還区分:デンプン由来吸収性局所止血材(本体アブリケータのみ)

製品に関するお問い合わせは  
こちらから

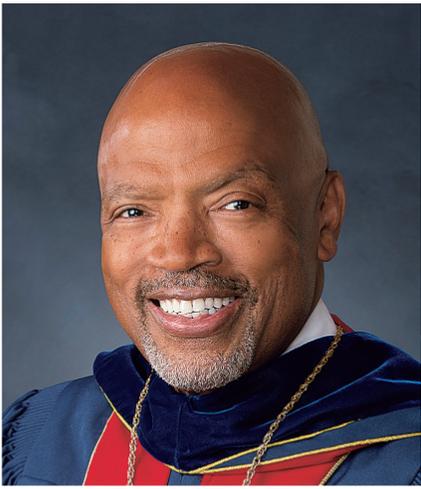
・事前に必ず添付文書を読み、本製品の使用目的、禁忌・禁止、使用上の注意等を守り、使用方法に従って正しくご使用ください。  
・本製品の添付文書は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の医薬品医療機器情報提供ホームページでも閲覧できます。

製造販売元  
株式会社メディコン  
〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地1-13-22  
カスタマーサービス Medicon-web@bd.com

crbard.jp

BD, the BD Logo, Arista are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. ©2023 BD. All rights reserved.





# Reflections on the Japan Surgical Society Meeting in Nagoya: A Presidential Highlight

Celebrating International Collaboration, Scientific Excellence, and Unforgettable Hospitality

ACS第104代会長

アンリ・R・フォード

*Henri R. Ford, MD, MHA, FACS, FRCS(Eng), FRCS(Edin), FWACS, FPCS, FAAP  
The 104th President of the American College of Surgeons*

## Introduction

In April 2024, I had the distinct honor of attending the Japan Surgical Society (JSS) meeting in Nagoya, Japan, as President of the American College of Surgeons (ACS). This event marked a high point in my presidency, serving as a testament to the enduring partnership between our societies and to the global spirit of surgical advancement, consistent with the ACS motto, "to heal all with skill and trust." The experience was not only professionally rewarding, but personally memorable, as I was welcomed with warmth and generosity by my Japanese colleagues and their families.

## Arrival in Nagoya: First Impressions and Warm Welcome

From the moment my family and I arrived in Nagoya, we were greeted with exceptional hospitality. The city, renowned for its blend of tradition and innovation, provided a fitting backdrop for a gathering of some of the world's leading surgeons and academic leaders. The local organizers, especially Dr. Goro Nakayama, ensured every detail was meticulously attended to, making us feel at home in a new land.

## Scientific Program: Quality and Dynamism of Presentations

The scientific program at the JSS meeting was of the highest caliber, featuring cutting-edge research, innovative surgical techniques, and dynamic discussions. The presentations demonstrated both the depth of expertise within the Japanese surgical community and the shared commitment to excellence that unites our societies. The level of engagement and collegial exchange was truly inspiring, reaffirming the importance of international collaboration in advancing patient care worldwide.

## Women in Surgery Session: Inspiring the Next Generation

The 'Women in Surgery' session stood out as a beacon of progress and hope for the future. It was heartening to see many women surgeons in attendance, accompanied by their daughters, symbolizing the growing legacy and influence of women in surgery. The discussions addressed both achievements and ongoing challenges, reaffirming the importance of mentorship and opportunity in shaping future leaders. Witnessing these family bonds and professional networks underscored the strides being made toward a more inclusive and dynamic surgical community.

## Presidential Dinner: A Night of Tradition and Celebration

One of the most spectacular highlights of the meeting was the presidential dinner, hosted in an elegant venue that combined historical ambiance with modern sophistication. The evening's festivities featured traditional Japanese entertainers and the graceful presence of geisha, whose performances offered an authentic glimpse into Japanese culture. Surrounded by colleagues and friends, my wife and I found the setting not only celebratory, but deeply moving—a true commemoration of the values and connections that bind our societies together.

## Acknowledgments: Honoring Leaders and Organizers

This remarkable gathering would not have been possible without the dedication and vision of several extraordinary individuals. I extend my deepest thanks to Dr. Yasuhiro Kodera, President of the 2024 Congress, for his leadership in orchestrating such a successful meeting and hosting the presidential dinner. Special appreciation goes to Dr. Goro Nakayama, whose efforts as local organizer ensured a seamless experience. I am grateful to 2024 Japan Surgical Society President Prof. Norihiko Ikeda and newly appointed President Prof. Akinobu Taketomi for their stewardship of the Society. Congratulations are also due to 2024 ACS Japan Chapter President Dr. Norihiro Kokudo, whose commitment to international collaboration continues to strengthen our bonds and support the ACS' mission in Japan. Lastly, my heartfelt thanks to Dr. Taisuke Baba for his personal guidance, hospitality, and

support throughout our stay.

## Family Experience: Hospitality Extended Beyond Professional Boundaries

The exceptional kindness shown to my family was among the most touching aspects of our visit. My spouse and children were welcomed with open arms, invited to participate in cultural activities and to savor the traditions of Japanese hospitality. Such gestures created lasting memories and reflected the deep sense of community and friendship that characterizes our Japanese colleagues. In fact, they have already returned to Japan twice since the meeting in Nagoya.

## Reflections: Impact on Presidency and International Collaboration

Attending the JSS meeting in Nagoya reinforced my belief in the power of global partnerships and of the critical role of ACS in ensuring that surgeons globally are equipped with the tools necessary "to heal all with skill and trust." The experience enriched my presidency and gave me a deeper appreciation for the collective drive to improve surgical care across borders. The event was a celebration of scientific achievement, cultural exchange, and enduring friendships, leaving me with a renewed sense of purpose and gratitude.

## Conclusion: Gratitude and Lasting Memories

My sincere thanks to all who made our visit to Nagoya so memorable. The warmth and generosity extended to me and my family have left an indelible imprint on us. The Japan Surgical Society meeting not only exemplified excellence in scientific and professional achievement, but also underscored the spirit of collaboration and camaraderie that defines our global surgical community, and the important role of the ACS as the global leader in surgery. I look forward to many more opportunities to build bridges and share knowledge in service of our shared mission.

## Biography

Henri R. Ford, M.D., MHA is dean and chief academic officer of the University of Miami Leonard M. Miller School of Medicine. Dr. Ford is a Haitian-born pediatric surgeon recognized for his global contributions in medicine including performing the first successful separation of conjoined twins in Haiti in 2015, alongside surgeons he helped train.

Motivated by a desire to drive change and have a positive impact on the world, Dr. Ford has conducted groundbreaking research on the pathogenesis of necrotizing enterocolitis, which has been funded by the NIH. He is the author of more than 300 peer-reviewed articles, book chapters, invited articles, abstracts and presentations. At the Miller School, Dr. Ford is developing the next generation of transformational leaders who will shape the future of medicine. Under his leadership, the Miller School has increased its research funding from the NIH from \$128 million in 2018 to more than \$175 million in 2024.

After earning his undergraduate degree from Princeton University, Dr. Ford received his medical degree from Harvard Medical School. He then completed his surgical internship and residency at New York Hospital Weill-Cornell Medical College, a research fellowship in immunology at the University of Pittsburgh School of Medicine, and a clinical fellowship in pediatric surgery at the Children's Hospital of Pittsburgh. He also received a Master of Health Administration degree from USC.

Dr. Ford is a fellow of the American College of Surgeons (ACS), the Royal College of Surgeons (England), the Royal College of Surgeons (Edinburgh), the West African College of Surgeons, and the American Academy of Pediatrics. He serves on the editorial board of numerous scientific journals. Dr. Ford is a member of the National Academy of Medicine and a member of the ACS Academy of Master Surgeon Educators. He is immediate past president of the American College of Surgeons, past president of the Society of Black Academic Surgeons, the Surgical Infection Society, the American Pediatric Surgical Association, and the Association for Academic Surgery, which established the "Henri Ford Junior Faculty Research Award" in his honor. He is a member of the Harvard Medical School Visiting Committee. He served on the Board of Trustees of Princeton University, the Board of Directors of the Association of American Medical College (AAMC), and chaired the Council of Deans of the AAMC. He is the recipient of numerous honors, including the Gold Humanism in Medicine award from the AAMC, the Arnold Salzborg mentoring award from the Surgical Section of the American Academy of Pediatrics, the Owen Wangenstein Scientific Forum Award from the ACS, which recognizes iconic figures in academic surgery for their leadership, mentorship, and scholarship, to name a few.



# ACS 日本支部 Councilor に就任して



九州大学大学院 消化器・総合外科 教授

吉住 朋晴

Tomoharu Yoshizumi, MD, PhD, FACS

2025年10月より、ACS日本支部 Councilor を拝命いたしました、九州大学消化器・総合外科の吉住朋晴です。ACSは1913年に設立され、外科医および外科医療の質向上を目的とする学術団体であり、現在では世界最大の外科系学術団体として広く知られています。米国およびカナダでは地域ごとに、またそれ以外の54か国にも支部が設置されており、ACS日本支部は1987年に創設されました。このたび日本支部の Councilor にご指名いただきましたことは、私個人にとってのみならず、教室にとりましてこの上ない名誉であり、心より感謝申し上げます。

私は現在、日本外科学会において理事の末席を汚しております。日本外科学会では、ACSとの交流事業の一環として、年に一度開催される ACS Clinical Congress における口演発表の機会を提供するとともに、参加旅費の支援を行っています。2008年10月、サンフランシスコで

開催された Clinical Congress に、私は幸運にも選出いただき参加する機会を得ました。学会期間中は、各種レセプションや会議に出席し、世界各国から選ばれた外科医と交流するとともに、口演発表の機会を得ました。さらに学会終了後にはセントルイスに移動し、ワシントン大学において William Chapman 教授のご指導のもと、同大学の肝移植施設および当時最先端であった臓器摘出専用施設を見学させていただきました。

Clinical Congress 初日には Convocation が開催されます。Convocation は New Fellow のお披露目を兼ねた式典であり、新たに Fellow に選ばれた外科医が入場します。多くの家族が参列し、Fellow 選出を家族全員で祝福する光景は大変印象的でした。その規模と荘厳さに圧倒されると同時に、私自身、このとき強く ACS Fellow を志すようになり、書類選考を経て2012年に新たに Fellow に加えていただき

ました。現在では、この体験を当科の医局員に伝え、一人でも多くの若手外科医が Fellow に応募するよう促しています。

武富紹信日本外科学会理事長のご提案により、日本外科学会には新たにブランディング委員会が設置され、私が初代委員長を拝命いたしました。「ともに歩み、ともに切り拓く日本外科学会」をキャッチコピーに、さまざまな活動を開始しています。本委員会の主たる目標はインターブランディングの向上であり、そのためには会員の皆様に日本外科学会への愛着と当事者意識を持っていただくことが不可欠です。このブランディング活動においては、一日の長を有する ACS の Convocation、開会式、参加証など、Clinical Congress における一連の行事や取り組みを参考にしながら、新たな活動計画を検討しています。今後も Clinical Congress に継続して参加し、得られた知見を可能な限り日本外科学会の活動に反

映させていきたいと考えています。

最後になりましたが、ACS日本支部 President である北川雄光先生のご指導のもと、Councilor として日本支部のさらなる発展のため、微力ながら尽力してまいる所存です。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 略歴

- 1992年 九州大学医学部卒業
- 2000年 - 2002年 米国マウントサイナイ病院 留学
- 2003年 九州大学病院第二外科助手
- 2006年 徳島大学病院消化器・移植外科 講師
- 2012年 九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科 講師
- 2016年 九州大学大学院消化器・総合外科 准教授
- 2022年 九州大学大学院消化器・総合外科 教授
- 2025年 九州大学大学院医学研究院副 研究員

Medtronic

その手技に、自由を



待望の  
7mm径対応

**Sonicision™ 7**  
コードレスシステム

コヴィディエンジャパン株式会社  
サージカル  
Tel:0120-998-971  
[medtronic.co.jp](http://medtronic.co.jp)

販売名：Sonicision 7 コードレスシステム  
医療機器承認番号：30500BZX00058000

使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。  
© 2025 Medtronic.  
Medtronic及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。

SI-A1178



血漿分画製剤 薬価基準収載

**献血アルブミン5%静注** 5g/100mL 12.5g/250mL **[JB]**  
Albumin 5% I.V. 5g/100mL, 12.5g/250mL **[JB]** **[献血]** (生物学的製剤基準 人血清アルブミン)

**献血アルブミン20%静注** 4g/20mL 10g/50mL **[JB]**  
Albumin 20% I.V. 4g/20mL, 10g/50mL **[JB]** **[献血]** (生物学的製剤基準 人血清アルブミン)

**献血アルブミン25%静注** 5g/20mL 12.5g/50mL **[ベネシス]**  
Albumin 25% I.V. 5g/20mL, 12.5g/50mL **-BENESIS** **[献血]** (生物学的製剤基準 人血清アルブミン)

**赤十字アルブミン25%静注** 12.5g/50mL  
Sekijuji Albumin 25% I.V. 12.5g/50mL **[献血]** (生物学的製剤基準 人血清アルブミン)

特定生物由来製品 | 処方箋医薬品<sup>注</sup> | 注)注意一医師等の処方箋により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等  
情報については電子化された添付文書をご参照ください。  
電子化された添付文書の改訂にご留意ください。

製造販売元  
一般社団法人  
**JB** 日本血液製剤機構

ALB-202512



■ 長浜市病院事業管理者

高折 恭一

*Kyoichi Takaori, MD, PhD, FACS*

## ACS 日本支部事務局長時代の思い出

このたび、北川雄光会長(President)と篠田昌宏事務局長 (Secretary and Chapter Administrator) のご厚意により、American College of Surgeons (ACS) 日本支部ニュースレターに寄稿させていただくことになりました。このような貴重な機会をいただきました北川先生と篠田先生、日本支部会員の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

私が最初に ACS Clinical Congress に参加したのは、天理よろづ相談所病院に新米外科医として勤務していた 1997 年で、当時はまだ報告例が比較的少なかった IPMN に対する膵頭十二指腸切除術 12 症例の成績を発表しました。憧れの ACS で、自ら手術した症例について発表することに、随分と胸がときめいたことを今でも覚えています。そして次のときめきは、恩師である谷川允彦先生 (当時大阪医科大学教授、故人) に ACS 日本支部の事務局を運営するようというご下命をいただいた時でした。その頃は、山川達郎先生 (当時帝京大学教授) が ACS の Governor-at-large を務められていたのですが、Governor の任期が 3 年 2 期まで (計 6 年) であるのに対し、日本支部会長の任期が 1 年間で短かったために、必ずしも ACS 本部の動向と日本支部の連携が十分ではありませんでした。このような問題を解決するため、今後は Governor の任期に合わせて、原則として Governor が日本支部会長を務め、統合的な運営を継続して進めることが、これまで ACS 日本支部を運営されてきた指導者の皆さまの間で合意されたところでした。そのような新しい体制で運営する ACS 日本支部の事務局を担当することは、まさに重責に身が引き締まる思いでした。一方で、ACS 日本支部を発展させるという大きな目標に向かって、ときめくような想いで準備

を進めることになりました。

2007 年 4 月開催の ACS 日本支部総会で、谷川先生が President of Japan Chapter に、小生が Secretary に指名・承認され、正式に新しい事務局の活動が始まりました。まずは最初に ACS 日本支部の Bylaws を読み込んでみたのですが、支部発足時に ACS 本部の監修を受けて急遽作成されたものであったこともあり、実際の運用には困難な内容も含まれていました。そこで、これまでに ACS Governor を務めてこられた出月康夫先生 (当時東京大学名誉教授、故人) と山川先生に、いろいろとアドバイスをいただき、Bylaws の改訂に着手いたしました。そして、谷川先生のご指示のもと、Bylaws 改訂委員会を発足しました。委員には、兼松隆之先生、北野正剛先生、久保田哲朗先生 (故人)、佐々木巖先生、田中雅夫先生、中尾昭公先生、前原善彦先生、矢永勝彦先生という、錚々たる重鎮の方々就任されました。そして、2008 年 7 月には日本支部特別総会を招集し、Bylaws 改訂についての議論を行ない、ある程度のコンセンサスを得ることができました。しかし、実際に Bylaws を改訂変更するには、規定により、年次総会参加者の 3 分の 2 以上の票決が必要で、かつ年次総会における議決定数は支部会員数の過半数と定められていました。困ったことに支部会員数そのものが不明でしたので、特別総会において、会員の条件として支部会費を完納していること、そして委任状による総会出席を認めることが合意されました。その後、東日本大震災により第 111 回日本外科学会学術総会が紙上開催となるなどの困難な時期を経て、2011 年 11 月 18 日に開催した ACS 日本支部年次総会において、改訂委員会の提案に基づいて Bylaws を改訂することが遂に決議され、現在の Bylaws の基盤

が出来上がりました。難産ではありましたが、意図通りの改訂が完成したことは、諸先輩方のアドバイスと皆さまのご協力のおかげと、深く感謝しています。

もう一つ、やりがいのあった仕事の思い出は、会員への情報提供と、会員間のコミュニケーション促進を目的として、ACS 日本支部ニュースレターを発刊したことです。現在もご利用いただいている重厚な金色を基調としたデザインは、慶応義塾大学出身の吉住さんという出版社の方と一緒に、いくつもの試作案を検討して作成したもので、そのニュースレターに 10 年以上経って寄稿させていただきますことは、感慨深いものがあります。

さて、日本支部事務局長時代の最も大切な思い出の一つは、2010 年の ACS Clinical Congress において、北島政樹先生 (当時慶応義塾大学教授、故人) が Honorary Fellowship を受賞されたことです。Convocation に引き続いて行った日本支部レセプションで、皆さんと一緒にお祝いをし、里見進先生 (当時東北大学教授・日本外科学会理事長) をはじめ多くの方からビデオメッセージも頂戴し

ました。北島先生は 2000 年から 2001 年に ACS 日本支部会長を務められています。昨年北島先生の後継者である北川雄光先生が日本支部会長に就任され、ACS Governor としても活躍されていることを、心から嬉しく思います。

偉大な先達から引き継いだ ACS 日本支部事務局は、皆さまにご指導をいただき、なんとか無事に吉田和彦先生 (当時東京慈恵会医科大学教授)、長谷川潔先生 (東京大学教授) へとバトンをつなぐことができました。ACS 日本支部が新しい体制になって最初の事務局を担当したことは、振り返ると楽しい思い出ですが、決して万全な体制を築けたわけではなく、吉田先生と長谷川先生にはいろいろとご苦勞をかけてしまったことと存じます。さらなる体制整備を進めていただきましたお陰様で、また次の世代へと、日本の外科医にとって貴重な財産が受けつがれていくことになったことは、感謝の念に絶えません。ACS Governor を兼務されます北川会長とともに、新事務局長の篠田先生のもとで、ますます ACS 日本支部が発展されますことを祈念いたします。

### 略 歴

1985 年	京都大学医学部卒業
1989 年	京都大学大学院医学研究科博士課程入学
1993 年	Assistant Professor: Department of Physiology and Biophysics, University of Arkansas for Medical Sciences
1995 年	京都大学医学博士学位取得
1995 年	天理よろづ相談所病院腹部一般外科医員
2000 年	朝日大学村上記念病院外科助教授
2003 年	大阪医科大学一般・消化器外科講師
2007 年	朝日大学総合医科学講座教授
2013 年	京都大学大学院医学研究科肝胆膵・移植外科准教授 (兼任: 京都大学医学部附属病院がんセンター膵臓がんユニット長)
2021 年	市立長浜病院院長 (兼任: 外科主任部長)
2022 年	長浜市病院事業管理者 (兼任: 市立長浜病院院長・外科主任部長) 現在に至る

### 所 属 学 会 (役 職):

American College of Surgeons (Fellow, Councilor of Japan Chapter)  
International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Secretary General and Representative Director)  
International Association of Pancreatology (Secretary and Representative of Council)  
Royal College of Surgeons Thailand (Honorary Fellow)



京都大学消化管外科

山本 健人

Takehito Yamamoto, MD, PhD

## ACS Clinical Congress 2025 に出席して

このたび、日本外科学会より2025年のInternational Exchange Fellowに選出していただき、10月4日から7日までシカゴで開催されたACS Clinical Congressに参加しました。私は大学病院の一般外科医であると同時に、さまざまな学会広報にも関わる役職ですが、そうした立場からも大変学びの多い旅になりました。

会場に到着してまず驚いたのは、学会全体におけるソーシャルメディア活用の徹底ぶりです。会場中央には巨大なハッシュタグ「#ACSCC25」のオブジェが設置され、壁面のモニターやパンフレットの随所に同じハッシュタグが掲示されています。InstagramやLinkedIn、Xなど、複数のプラットフォームでの投稿がリアルタイムでモニターに流れる仕組みは、学会がオンライン上の交流まで積極的に後押ししている姿勢の表れだと感じました。

また、参加者の名札には“Poster Presenter”や“New Fellow”といった属性を示すタグを自由に追加でき、趣味を示すバッジも選べます。名札を通じて自然なコミュニケーション

が生まれるよう細かな工夫が施されており、参加者同士の交流を促す環境づくりが非常に洗練されていました。我が国の学会でも、同様の試みを取り入れてみたいと感じました。

学会初日にはConvocation Ceremonyに出席しました。Fellowに新たに選ばれた外科医が世界93か国から集まり、会場を埋め尽くす光景は壮観でした。「威風堂々」の音楽が流れる中、家族や仲間の祝福を受けてローブ姿で入場する姿には、外科医としての誇りと重責が強く感じられました。毎年これだけ多くの外科医がFellowship取得を志望する背景には、ACSという組織が築いてきた圧倒的なブランド力があると実感しました。日本外科学会ブランディング委員会に所属する立場としても、学ぶべき点は非常に多くありました。

その日の夜はWind City Reception（参加者向けの懇親会）に参加しましたが、その規模は日本の学会を大きく上回っていました。シカゴをイメージしたパフォーマンスなど華やかな演出がある一方、参加者同士の

会話を妨げない絶妙なバランスが保たれており、過度に華美にならない“適温”のホスピタリティが印象的でした。タレントや著名人が派手に登場することもなく、学会として「学会員の交流を最優先にする」という姿勢が随所に感じられました。

2日目のOpening Ceremonyでは、新しくFellowになった会員や委員会のリーダー、国際ゲストをスクリーンに映し出して紹介し、参加者全員で称える時間が設けられていたのが印象的でした。学会が会員の功績を積極的に可視化し、組織全体で祝福する取り組みは、学会員の帰属意識や学術活動へのモチベーションを高める上で、非常に重要だと感じます。

2日目の夜にはInternational Receptionに参加しました。ここでは世界各国の医師がフランクに交流し、名刺ではなくスマートフォンで連絡先を交換していく姿が印象的でした。その後、メンターであるUniversity of Alabama at BirminghamのDaniel Chu先生のご厚意で、複数の大学が主催するレセプションを次々と巡り、多様な背景を持つ外科医と深く交流することができました。学会期間中に100を超えるレセプションが開催されるという話には驚かされましたが、ACSが交流を極めて重視していることがよく伝わっ

てきました。最後はJapan Nightにも出席し、多くの日本人の先生方と交流する機会もいただきました。

3日目のInternational Scholars and Travelers Sessionでは、オーラルで発表する機会をいただきました。各国の医師が発表するこのセッションでは、世界の外科医療の現状や課題を直接知ることができました。ロボット手術が広く普及していない地域、設備はあっても指導者が不足している地域など、国ごとの事情はさまざまです。一方で、ドイツのように国を挙げて国際化に力を入れている学会もあり、その戦略の明確さには強い刺激を受けました。

私は、日本の多施設データベースを用いた大腸癌の研究や、ソーシャルメディア活用に関する取り組みを紹介し、日本の外科医の国際的な存在感を高めたいという思いを伝えました。特に後者は他国の発表者にはあまり見られず、多くの先生方から温かいフィードバックをいただくことができました。

ACS終了後はヒューストンに飛び、MD Anderson Cancer Centerでの施設見学の機会をいただきました。改めて、このような機会を提供してくださった外科学会の皆様、そしてACS日本支部の皆様へ感謝申し上げます。



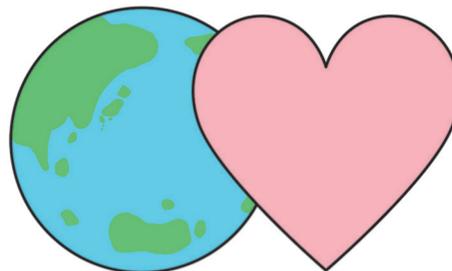
International Scholars and Travelers Session 登壇者の集合写真

## 略歴

2010年	京都大学医学部医学科 卒業
2010年	神戸市立医療センター中央市民病院 臨床研修医
2012年	同上 外科後期研修医
2015年	田附興風会医学研究所北野病院 消化器外科医員
2017年	京都大学大学院医学研究科博士課程（医学専攻・消化管外科学分野）
2021年	田附興風会医学研究所北野病院 消化器外科医員・腫瘍研究部研究員
2025年	京都大学医学部附属病院 消化管外科 特定助教

いつもを、いつまでも。

TAIHO 大鵬薬品



## 新薬で、がん治療の未来を拓く。

新薬を待つ世界中の人びとに笑顔に満ちた未来を届けたい――。

抗がん剤の研究開発に取り組んできた大鵬薬品はこれからも社内外の多様な力を結集してがん治療に貢献する革新的な新薬を創り出していきます。





## ACS Clinical Congress 2025 で日本支部・日本外科学会共催 JAPAN NIGHT 2025 in Chicago を開催

### Japan Night 2025 in Chicago Strengthens Ties Across Borders



国際医療福祉大学成田病院消化器外科 教授

篠田 昌宏

Masahiro Shinoda, MD, PhD, FACS

ACS Clinical Congress 2025 の期間中の 10 月 5 日（日）午後 7 時から 9 時にかけて、シカゴ市内の Palmer House Hilton にて、ACS 日本支部と日本外科学会の共催による「Japan Night in Chicago 2025」が開催されました。本会は、これまで「情報交換会」として ACS 日本支部が主催してきたものですが、2025 年からは両団体の共催となり、日本支部会員に加えて日本外科学会会員にも広くご参加いただける会となりました。

北川雄光先生（ACS 日本支部会長・支部長）、武富紹信先生（日本外科学会理事長）のご挨拶に続き、国土典宏先生（ACS 日本支部前支部長）の乾杯で華やかに開会しました。会場には、ACS 新会長の Dr. Anton Sidawy をはじめ、Dr. E. Christopher Ellison、Dr. Henri R. Ford、Dr. Edward M. Barksdale Jr. など、ACS の歴代会長や重鎮の先生方が多数ご出席くださり、日本支部・日本外科学会・ACS 本部の間で活発な交流が行われました。新 FACS16 名のうち 11 名が参加し、それぞれの熱意あふれるスピーチで会場を大いに盛り上げました。コロナ禍で途絶えていた企業協賛（ストライカー社）が再開となったのは印象的でした。歓談や集合写真撮影を挟みながら、参加者同士の絆が深まり、国際的な連携の可能性を感じるひとときとなりました。出席者は約 65 名で、そのうち 20 名弱は米国で活躍する外科医の先生方でした。日米の外科医による闊達な交流が繰り広げられ、2 時間はあっという間に過ぎました。盛会のうちに幕を閉じた本会は、次回ワシントン D.C. での再会への期待を胸に、笑顔とともにお開きとなりました。

本会の開催にあたり、日本支部前事務局長の長谷川潔先生（日本外科学会副理事長）、武富紹信先生（日本外科学会理事長）、湊谷謙司先生（日本外科学会理事・国際委員会委員長）に多大なるご尽力を賜りました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

On October 5, 2025, during the ACS Clinical Congress, the ACS Japan Chapter and the Japan Surgical Society (JSS) co-hosted “Japan Night 2025 in Chicago” at the Palmer House Hilton. This annual gathering, formerly organized solely by the Japan Chapter, was held for the first time as a joint event with JSS, expanding participation to include both ACS Japan Chapter members and JSS delegates.

The evening welcomed approximately 65 participants, including nearly 20 surgeons currently practicing in the United States. The event opened with remarks by Dr. Yuko Kitagawa (Chair, ACS Japan Chapter) and Dr. Akinobu Taketomi (President, JSS), followed by a celebratory toast by former Chair Dr. Norihiro Kokudo. A highlight of the evening was the presence of distinguished ACS leadership. ACS President Dr. Anton Sidawy, along with past presidents Drs. E. Christopher Ellison and Henri R. Ford, and Second Vice-President Dr. Edward M. Barksdale Jr., honored the gathering with their presence, creating a rare opportunity for direct dialogue and exchange between ACS leadership and Japanese surgical communities. The event fostered meaningful connections, strengthened professional ties, and concluded with warm anticipation for the next gathering in Washington, D.C.

#### プログラム

##### 開会挨拶

- ・ ACS 日本支部会長・支部長 北川雄光先生
- ・ 日本外科学会理事長 武富紹信先生

##### 乾杯

- ・ ACS 日本支部前支部長 国土典宏先生

##### (歓談)

##### 挨拶

- ・ President of ACS Dr. Anton Sidawy
- ・ The 103rd President of ACS Dr. E. Christopher Ellison
- ・ FACS Dr. Ali A. Khaki (Oregon Health and Science University)
- ・ FACS Dr. Charles Balch (MD Anderson)
- ・ ACS 日本支部前事務局長、日本外科学会副理事長 長谷川潔先生
- ・ ACS 日本支部新評議員、日本外科学会理事 吉住朋晴先生

##### (集合写真撮影)

##### 挨拶

- ・ The 104th President of ACS Dr. Henri R. Ford
- ・ 新 FACS (11 名)
- ・ Second Vice-President of ACS Dr. Edward M. Barksdale Jr.

##### (歓談)

##### 閉会挨拶

- ・ ACS 日本支部事務局長 篠田昌宏



Japan Night in Chicago 2025 参加者での集合写真

#### 略歴

- 1994 年 3 月 慶應義塾大学医学部卒業
- 1996 年 5 月 慶應義塾大学医学部助手（専修医）（外科学）
- （2001 年 4 月～2004 年 7 月 米国マサチューセッツ総合病院研究生）
- 2004 年 8 月 川崎市立川崎病院外科副医長
- 2006 年 10 月 慶應義塾大学助手（医学部外科学）
- 2012 年 4 月 慶應義塾大学講師（学部内）（医学部外科学）
- 2017 年 5 月 慶應義塾大学准教授（医学部外科学）
- 2020 年 4 月 国際医療福祉大学医学部教授 三田病院消化器センター センター長
- 2024 年 4 月 1 日～現在 国際医療福祉大学成田病院消化器外科 教授



# New Fellows

## 新入会員名簿

**Jota Watanabe** 渡邊 常太 (愛媛県立中央病院 消化器外科)  
**Kentaro Iwaki** 岩城 謙太郎 (京都大学大学院 医学研究科 肝胆膵・移植外科)  
**Manabu Futamura** 二村 学 (岐阜大学医学部附属病院 乳腺外科)  
**Masashi Takeuchi** 竹内 優志 (慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科)  
**Naoki Fujimura** 藤村 直樹 (慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科)  
**Nariaki Okamoto** 岡本 成亮 (国立がん研究センター東病院 大腸外科)  
**Ryota Tanaka** 田中 涼太 (大阪公立大学大学院 医学研究科 肝胆膵外科学)  
**Satoru Matsuda** 松田 諭 (慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科)

**Satoru Morita** 森田 覚 (慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科)  
**Takahiro Masuda** 増田 隆洋 (東京慈恵会医科大学附属病院 上部消化管外科)  
**Takashi Kokudo** 國土 貴嗣 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 外科)  
**Tatsuki Ishikawa** 石川 達基 (University of Arkansas for Medical Sciences Transplant Surgery)  
**Tetsu Fukunaga** 福永 哲 (順天堂大学医学部附属順天堂医院 食道・胃外科)  
**Tomoaki Ito** 伊藤 智彰 (順天堂大学医学部附属静岡病院 外科)  
**Toshitaka Sugawara** 菅原 俊喬 (国際医療福祉大学医学部 消化器外科学教室)  
**Yuki Sekido** 関戸 悠紀 (大阪大学 消化器外科学)

## 事務局 便り

事務局は2024年秋に新体制が発足して2年目となり、ニューズレターの発行も前号(第16号)に続き今回で2回目となりました。現在、事務局は北川会長・支部長のもと、篠田事務局長、吉田秘書の三名体制で運営しております。国土典宏前会長・支部長、長谷川潔前事務局長には、引き続き多くのご助言とご支援をいただいております。年間を通じた業務の流れもようやく把握できるようになり、支部運営は少しずつではありますが安定した体制が整いつつあります。

2025年の大きな出来事としては、従来の情報交換会をさらに発展させ、日本外科学会との共催という新たな形で開催された「Japan Night 2025 in Chicago」が挙げられます。このような国際的な取り組みは、支部の存在感を高めるとともに、今後の活動の幅を広げる大きな一歩となりました。共催という形態は、支部運営のさらなる安定化にも大きく寄与しており、日本外科学会武富昭信理事長、長谷川潔副理事長をはじめ関係各位に深く御礼申し上げます。

今年のClinical Congress 2026は2026年9月26日～29日にWashington, D.C.にて開催されます。今回も26日土曜のConvocation Ceremonyの翌日となる27日日曜に情報交換会「Japan Night 2026 in Washington, D.C.」の開催を予定しております。改めてご案内申し上げますので、ぜひ多くの皆さまにご参加いただければ幸いです。

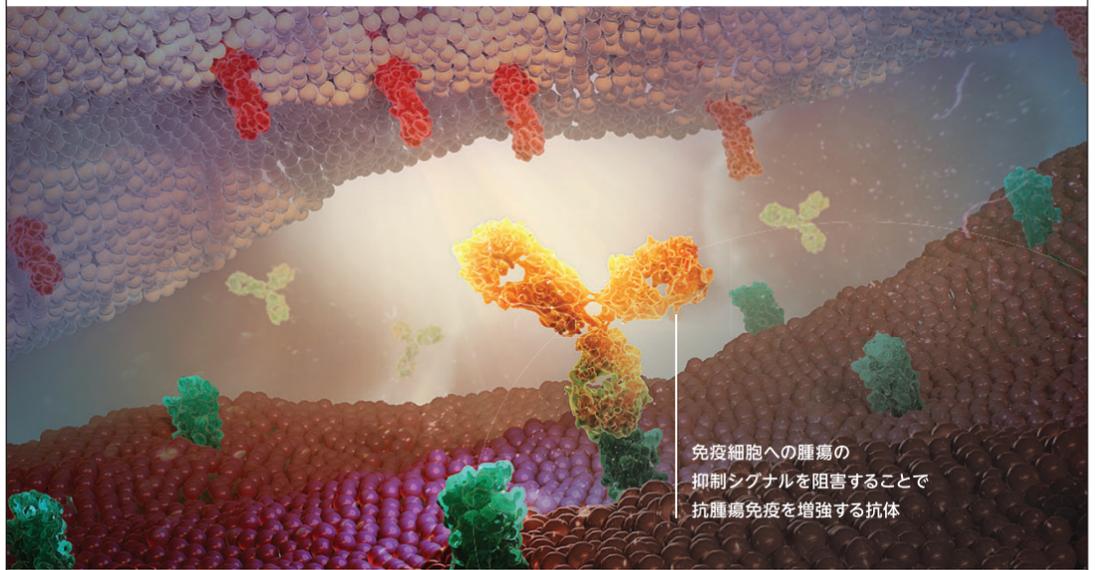
今号では、2019年よりGovernorを務められ、日本支部の国際的なプレゼンス向上に多大な貢献をされた国土典宏先生、そして2007年から2011年まで事務局長として支部の基盤整備に尽力された高折恭一先生のご寄稿を掲載しております。お二人のこれまでの歩みは、日本支部の発展を支えてきた大きな礎であり、そのご尽力に改めて深い敬意と感謝の意を表したいと存じます。

さらに、Ford元ACS会長によるご挨拶、吉住朋晴新理事、山本健人先生のご寄稿も併せて掲載しております。それぞれの視点から語られる貴重なご意見やご経験は、今後の支部活動にとって大きな示唆を与えてくださるものと確信しております。ぜひご一読いただければ幸いです。

今後とも、ACS日本支部のさらなる発展に向けて、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

**ACS日本支部事務局 篠田昌宏**  
 〒286-8520 千葉県成田市畑ヶ田852番地  
 国際医療福祉大学成田病院消化器外科医局内  
 Email: masa02114@yahoo.co.jp,  
 acsjpn-admin@umin.ac.jp

## What science can do



アストラゼネカ株式会社

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB  
www.astrazeneca.co.jp/

**Johnson & Johnson MedTech**

製造販売元: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 TEL.0120-160-834

販売名: エンドパス スタイプラー Powered ECHOLON FLEX 3000 承認番号: 304A8Z000000000	販売名: HARMONIC 1100 承認番号: 22708Z000155000	販売名: ECHELON CIRCULAR Powered Stapler 承認番号: 22300Z000313000	承認番号: 22908Z00012000
販売名: エンシロン サークキュラー パワードスタイプラー 承認番号: 21908Z000882000	販売名: ENSEAL X1 Curved Jaw Tissue Sealer 承認番号: 30308Z000391000	販売名: DERMABOND PRIME 承認番号: 22708Z000411000	承認番号: 30408Z00016000
販売名: エンドパス トロッカーシステム 承認番号: 30308Z000138000	販売名: SURGIFLO 承認番号: 30308Z000391000	販売名: HARMONIC FOCUS+ 承認番号: 22708Z000411000	承認番号: 22300Z000313000
販売名: ハーモニック 1100 システム 承認番号: 30308Z000391000	販売名: SURGICEL Powder Absorbable Hemostat 承認番号: 22708Z000411000	販売名: STRATAFIX Spiral PDS Plus 承認番号: 30308Z00042000	承認番号: 131X00204ME0010
販売名: エンシロンX1 ティッシュシーラー 承認番号: 30308Z000391000	販売名: SURGICEL XCEL Trocar series 承認番号: 22708Z000411000	販売名: STRATAFIX Spiral PDS Plus Bi-directional 承認番号: 30308Z00042000	承認番号: 23100Z000112000
販売名: ハーモニック FOCUS プラス 承認番号: 22708Z000411000	販売名: SURGICEL SNoW Absorbable Hemostat 承認番号: 22708Z000411000	販売名: STRATAFIX Spiral PDS Plus MD 承認番号: 30308Z00042000	承認番号: 30208Z00002000

販売名: エンシロンX1 スタイプラー Powered ECHOLON FLEX 3000  
承認番号: 304A8Z000000000

販売名: STRATAFIX Spiral PDS プラス  
承認番号: 30408Z00016000

販売名: PDS プラス  
承認番号: 22300Z000313000

販売名: ダマボンド プリネオ  
承認番号: 131X00204ME0010

販売名: サージフロ  
承認番号: 23100Z000112000

販売名: サージセル パウダー・アブソーバブル・ヘモスタット  
承認番号: 30308Z000391000

販売名: サージセル スノー・アブソーバブル・ヘモスタット  
承認番号: 30308Z00042000

承認番号: 30408Z000112000

JP\_ETH\_STAP\_357792 ©JLJ.KK 2022



# 17 Doctors

## 1788 4K Platform



“見える”を体験-1788を使用した手術動画を公開

ご登録はこちら



製造販売業者  
日本ストライカー株式会社  
P 03 6894 0000  
www.stryker.com/jp

医療機器届出番号	販売名
13B1X10209001008	1788 4Kカメラシステム
13B1X10209001007	L12 光源装置